

生徒のありかた生き方に資する取組 ～STARTプログラム、ミライ Café&GlobalCafé～

茨城県 茨城県立水戸第二高等学校

基本データ

所在地	水戸市大町2-2-14
児童生徒数	954人
教職員数	58人
蔵書数	45,175冊
年間貸出冊数	3,254冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】計画的・組織的な運営・活用

【活動のねらい】

- 生徒のありかた・生き方に資する取組である。STARTプログラム、ミライ Café&GlobalCafé のどちらも、思考力、判断力、表現力、情報活用能力を育むとともに、探究力のベースを育成することをねらいとしている。
- 併せて、学校図書館の効果的な使い方について、「学びの基礎を作る」(learn how to learn)という視点から理解させる活動になっている。

取組・活動の概要

(1) START プログラム

- 1学年全クラスを対象に、総合的な学習の時間(道徳)に、年間14時間、4月から翌年2月の期間に開催。
- 人間としての在りかた・生き方を考える事をテーマに、思考力、判断力、表現力、情報活用能力を育むために図書館の活用の仕方、資料の精選、資料作成に至る留意事項を学び、その評価としてプレゼンテーションを経験するオリジナルプログラム「STARTプログラム」を実施。
- 実施内容としては、興味のある人物・テーマ等探究課題を設定し、学校図書館の利用及び情報リテラシー指導の後、探究学習を行い、スライドにまとめ、一人5分で発表。



スタートプログラム説明

(2) ミライ Café&GlobalCafé

- 全学年を対象とし、放課後の図書館で、月に一回のペースで開催している。参加者は10名～20名程度(40名まで対応可)。
- 善意の大人(その道のプロ)を図書館にお呼びしてのフリートークで、費用をかけずに行うことを大事に実施している。

① ミライ Café

- ミライ Café は、全学年を対象に、放課後に、校外からゲストを招いて生徒にホンネで話をしてもらう取り組み。少人数での参加のため、自分の将来について真剣に考える場となっている。
- 県立中央病院看護局長、読売新聞水戸支局記者、茨城キリスト教大学ハリス・G・アイヴス名誉教授、勝田特別支援学校教諭、横浜国立大学の留学生などをゲストとして招いた。



女性記者とのミライ Café

②GlobalCafé

- 全学年を対象に、放課後に週に1回、ALTによる講座 GlobalCafé を開催。グローバル化する社会において、自分の意見を述べる必要性は今後益々高まってくるため、自然体で自己を表明できる態度を身につける目的で開催。
- 世界のトピックを取上げ、英語で説明の後、参加者がそれぞれの感想を述べ合う。お茶とお菓子を仲立ちにしているため、なごやかな雰囲気で行えるのが特徴。
- 主なトピックは、日本文化（着物着装）、アマゾンの森林火災、プラスチックゴミ、香港抗議デモ、東京オリンピック など

③Global フォーラム

- 全学年を対象に、年に2回、放課後に留学生、ALT、教員による講座。グローバル化した社会を生きてく上で、世界を身近に感じることは重要であるため、留学生や ALT から直接出身国の様子を聞く機会を設けた。

取組・活動の工夫や特徴

(1) START プログラム

- 初年度は、希望クラス8時間であったが、情報活用能力の育成及び表現力の育成についても検討を行い14時間のプログラムとした。

(2) ミライ Café & GlobalCafé

- 外部人材が本校の図書館を訪問しやすい時間帯ということと、本校生も活動しやすいという両者をとって放課後4時から1時間程度という設定で行っている。
- ミライ Café では生徒への広報活動を工夫

取組・活動の成果や今後の展望

(1) START プログラム

- START プログラム実施以前は、大学での図書館活用や各種発表に困難をきたしている事例を多く見聞したが、実施後は改善。
- 大学に進学した卒業生からは、大学の授業における発表や論文の作成の際、資料収集及び精選

については効果的に図書館を活用できているとの報告を受けている。

(2) ミライ Café & GlobalCafé

- その道のプロの話を直接伺い、質問することで自分の進路を見据え、学ぶ意欲喚起につながると同時に、提示された資料等を図書館で探し、手にする生徒が増えた。
- ミライ Café に参加した生徒個々人の進路への関心が深まった。
- GlobalCafé に取り組む前までは、生徒は英語に対して身構えていたようだが、ALT の助言やフランクな態度が功を奏して、自分の意見をフランクに言えるようになってきた。ALT が準備してくるトピックや動画が興味関心を喚起している。
- Global フォーラムに取り組む前までは、外国に対して、遠いイメージを抱いていたようであるが、具体的な日常生活の様子を聞くことで、親しみを持つ事ができた。